

SDGs スタートアップ研究分科会

アドバンスコース第1回情報交換会（キックオフ）実施報告

2023年8月30日

PMI 日本支部

SDGs スタートアップ研究分科会

アドバンスコース・リーダー 歳弘 浩三

去る7月22日(土曜)、SDGs スタートアップ研究分科会のアドバンスコース第1回情報交換会（キックオフ）を開催しましたのでご報告いたします。

アジェンダは次の通りです。

1. 2023年度SDGs スタートアップ研究分科会の概要
2. アドバンスコースの運営について
3. アドバンスコース参加団体の情報交換
 - a. 舞鶴工業高等専門学校（舞鶴地域における小規模河川の防災対策プログラム）
 - b. 株式会社カルティブ（企業版ふるさと納税を利用した地域課題プラットフォーム）
 - c. 有限会社ウイルパワー（循環ビジネスの社会的役割の実施）
 - d. 高野山真言宗[大師協会] 和歌山教区＜三密教会＞（生活の継続が保証される町づくり）
 - e. 株式会社インフォテック・サーブ（iCD活用でSDGsを達成）
 - f. ブルージュオブズ株式会社（SDGs×広報応援プロジェクト）
 - g. 株式会社ユーズドネット（リユース品の情緒的価値を基にした価値創造）
 - h. ネクシア合同会社（自然治癒力を引き出す運動を通して健康的なカラダを創造する未来社会の実現）
4. フリーディスカッション

各項目の概要をお伝えします。

1. 2023年度SDGs スタートアップ研究分科会の概要

・SDGs スタートアップ研究分科会

PMI 日本支部は、SDGs 達成プロジェクトを効果的に軌道に乗せ推進する方法の開発・普及を図るために、2019年10月から内閣府「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」に「SDGs スタートアップ研究分科会」を設けています。

本年度は、昨年度に引き続きSDGs プロジェクトのマネジメント手法を学ぶ「ベーシックコース」と、実際に事業として行っているSDGs プロジェクトを支援する「アドバンスコース」の二本立てで実施いたします。

「ベーシックコース」については本年も 10 月開始として、すでに参加団体の募集を開始しています。詳細は次のウェブサイトをご覧ください。

[2023年度「SDGs スタートアップ研究分科会-ベーシックコース」参加団体募集のご案内 -SDGs スタートアップ研究会 \(pmi-japan.org\)](https://www.pmi-japan.org/2023年度「SDGs スタートアップ研究分科会-ベーシックコース」参加団体募集のご案内 -SDGs スタートアップ研究会)

アドバンスコースの開催

本年度のアドバンスコースは、原則として 2019 年度、2020 年度、2021 年度、2022 年度のベーシックコースに参加された団体で実際に実行されている SDG プロジェクトを対象としていますが、すでに SDGs 事業を開始していて、基本的なプロジェクトマネジメントの知識をお持ちの場合は、途中参加もご相談に応じます。

図 1 にアドバンスコースの位置づけ、スケジュールを示します。

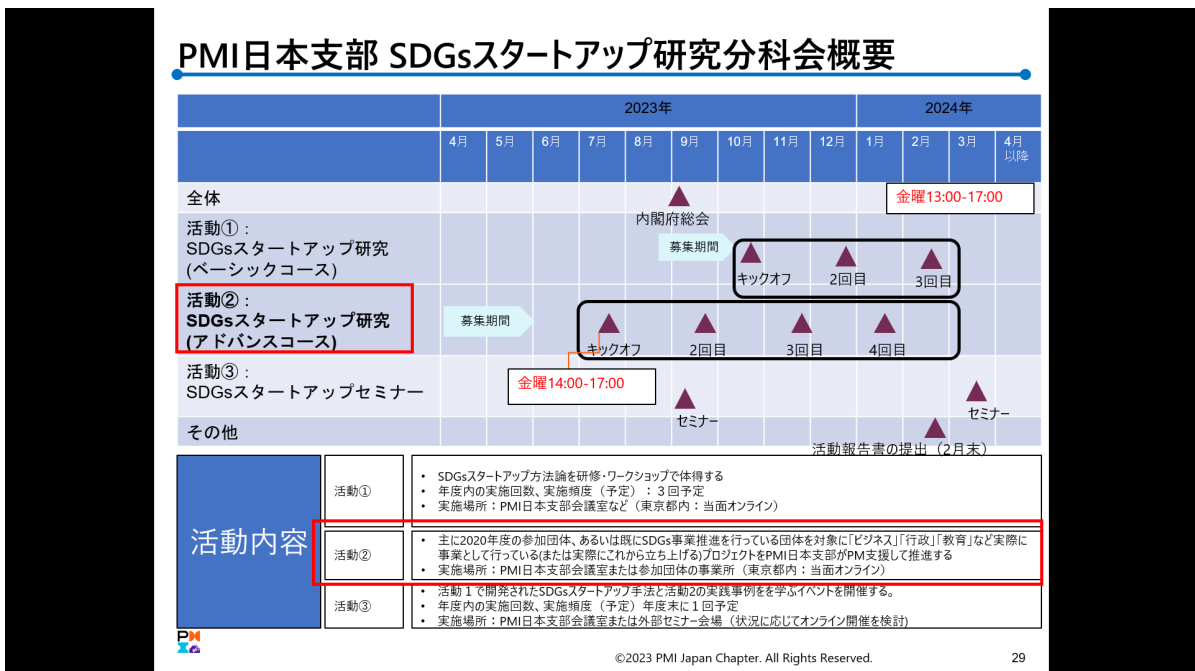


図 1 アドバンスコースのスケジュール、活動内容

2.アドバンスコースの運営について

アドバンスコースは、「参加団体の SDGs 事業プロジェクトが順調に進められていること。」とともに、「SDGs スタートアップ手法を活用し、ゴールの設定、見直し、推進上の課題、リスクなどに対して PM 手法を活用し支援する。」を目的にしています。

スケジュール

参加団体ごとに本年 4 月から準備段階の活動を開始しており、アドバンスコースへの参加団体との情報交換会を今回のキックオフを含め年 4 回行います。

SDGs 事業プロジェクトのテーマ、目標や方針は各団体で異なりますので、情報交換会では

各団体の活動テーマ、活動内容を可能な範囲で共有し、団体間でのコミュニケーションを活性化し相互連携や共通課題の検討などを行える場を提供していきます。

プログラムマネジメント

各団体の SDGs 事業は単一のプロジェクトではなく、複数のプロジェクトが連携することが多いので、プログラムマネジメントの手法で進めます。

依存関係のあるプロジェクト間のコミュニケーションや情報連携、リスクマネジメントなどの支援を行います。

3 アドバンスコース参加団体の情報交換

アドバンスコース情報交換会は現在アドバンスコースに参加されている 6 団体の活動状況の概要の共有と共通の課題や検討事項に対して情報を交換し、参加団体および PMI 日本支部アドバンスコース支援メンバーで検討することを目的としています。

昨年度までの参加団体、舞鶴工業高等専門学校、株式会社カルティブ、有限会社ウイルパワー、高野山真言宗[大師協会] 和歌山教区<三密教会>、インフォテック・サーブ株式会社、ブルジョブズ株式会社の 6 団体と、今年度から参加されました、株式会社ユーズドネット、ネクシア合同会社の 2 団体を加え、8 団体に SDGs 取組み事例を紹介していただきました。

a. 舞鶴工業高等専門学校（舞鶴地域における小規模河川の防災対策プログラム）

（報告：舞鶴工業高等専門学校 内海康雄氏）

- ・ 北近畿における地域課題の解決による地方創生：PMI 日本フォーラム 2023 講演資料 A1 参照
- ・ 舞鶴地域における小規模河川の防災対策プログラムで、PM 手法として、WBS、SDGs スタートアップ手法を活用し、リーンキャンバス、ロジックモデル、ベネフィットリストが有効。優先課題を決定し、ビジョンからバックキャストで中間成果に展開する。事業活動のアウトプットと関連付けて、実現のシナリオを確認する。など SDGs スタートアップ手法の有効性が評価されています。
- ・ 北近畿地域での舞鶴高専の活動と人材の育成
- ・ 現在とこれからの展開として、（一社）京都知恵森の助成の採択
- ・ 新たな地域社会の課題の発見と解決として、まいづる未来の海プロジェクトを開始した。（期間：2021年10月～2024年9月）

参考：PMI 日本フォーラム 2023 講演資料 A1

b. 株式会社カルティブ（企業版ふるさと納税を利用した地域課題プラットフォーム[river]

（報告：株式会社カルティブ 企業版ふるさと納税コンサルタント 小坪拓也氏 ビデオ録画にて）

- ・ [river（リバー）] という地域課題プラットフォームで、「企業版ふるさと納税の活用を目指す自治体と企業が、制度を活用するためのサービス」を提供しています。「企業と地方を繋ぎ、双方の課題解決への支援をすること」をミッションとし「レジリエントで持続可能な社会ができていること」をビジョンとしています。2020年4月に大幅に改正された「企業版ふるさと納税」制度の解説や申請手続きの手引きを、300本を超える YouTube 動画と毎週のセミナーで啓蒙しています。
- ・ river事業に関する内容が、「プロジェクトマネジメント研究報告 2022 vol. 2」として、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が運営する「J-STAGE」（科学技術情報発信通信総合システム）に掲載されました。

これまでの実績として

- ・ 契約自治体数： 166自治体（7/15時点）
 - ・ コーディネーター： 30社
- ・ 2023年度はさらに多くの自治体と企業のマッチングサービスを展開できるように推進していきます。

参考：

「プロジェクトマネジメント研究報告 2022 vol. 2」

[企業版ふるさと納税を活用した地域課題解決プラットフォームの構築 \(jst.go.jp\)](https://www.jst.go.jp/)

c. 有限会社ウイルパワー(循環ビジネスの社会的役割の実施)

（報告：有限会社ウイルパワー 代表取締役 江川 健次郎氏）

- ・ プロジェクトテーマは、循環ビジネスの社会的役割の実施で、
 - ・ 有限会社ウイルパワーはリユースショップの運営と中古品・不要品の輸出事業を行っており、リユースショップ「リユースマン」を岡山県倉敷市と香川県丸亀市で運営、また、中古品・不要品を開発途上国へ輸出しています。
 - ・ SDGs アドバンス支援で行っているPJはサーキュラーベース（資源循環）という、不用品・中古品を回収して資源循環させる場づくりを行っています。オークションなどにより価値を創出しています。
- また、地方行政と連携して、廃棄物優先の3R政策から、リユース・リサイクル優先の状態へ移行するように推進します。
- 今行っているスケジュールについてガントチャートで予実を管理しています。
- PMI 日本支部のSDGsスタートアップメンバーの支援で応援してくれる仲間がいるという安心感があります。

d. 高野山真言宗[大師協会] 和歌山教区<三密教会>(生活の継続が保証される町づくり)

(報告：高野山真言宗「大師協会」 和歌山教区<三密教会> 浅田慈照氏)

- ・2021年度は「空き家の活用」をテーマに、2022年度は、地域防災にフォーカスし、
テーマ：「生活の継続が保証される町づくり」で、誰もが・自分の住まう地域で・いつまでも
(持続可能な、誰1人取り残さない街区形成)

SDGs 理念 (方法)・小規模街区運営 (実行・実践) : SDGs 理念を深く理解し、それぞれの生活につなげる

- 1、少子高齢化→ 血縁より地縁：紀見小学校との異世代交流
- 2、防災→ 公助より自助：自主防災から自守防災へ
- 3、お節介・世話焼き歓迎マインド→ 支援グループの育成
を推進してきました。

- ・2023年度<三密教会>プロジェクトとしては、

「半径 10M の人が安楽に過ごせる社会作り～誰1人取り残さない・・・人が真ん中、モノはその次」をテーマに世間に違和感を持つ「人」支援～性違和 (LGBTQ+)、経済格差 (女性、高齢者、障がい者) のところをつなぐ活動を行いたいと検討しています。

e. 株式会社インフォテック・サーブ (代表：橋爪修氏)

(報告：株式会社インフォテック・サーブ 代表取締役 木田氏、志村氏)

テーマは：iCD 活用で SDGs を達成 主要なゴール 8: 働きがいも経済成長も

- ・これまで、リーンキャンパスの見直し、IBM のデザイン思考も活用し、共感マップの作成、AsIs シナリオの作成を行い、わくわくする組織作りをゴールとして、ビジョンの策定 『社員が生き生きと仕事に取り組むことで、個人の成長を通して会社を成長させたい』を行い、課題の分析:エンゲージメントの壁と幸福因子の評価を行っています。

注：iCD とは：IT を利活用するビジネスに求められる業務 (タスク) と、それを支える IT 人材の能力や素養 (スキル) を体系化したもの

f. ブルージュオブズ株式会社 (代表：橋本滋氏)

(報告：ブルージュオブズ株式会社 代表：橋本滋氏)

テーマは：SDGs × 広報応援プロジェクト

事業内容：WEB 制作、メディア制作、SDGs 事業の 3 本柱としています。

SDGs に取り組む中小企業の広報応援隊を目指しています。

- ・小企業の SDGs 経営 x 事業再構築の伴走支援、取材ライティング力が強みで、HP・オウンドメディア (自社保有メディア) での情報発信、SDGs 研修、事業再構築補助金申請の支援などを行いたいと思っています。

g. 株式会社ユーズドネット （代表：徳田真人氏）

（報告：株式会社ユーズドネット 代表取締役 名前：徳田真人氏）

テーマは：リユース品の情緒的価値を基にした価値創造

・テクノロジーの進化は経済活動をより無機質にすると見ており、その中でのぬくもりのあるコミュニケーションや、高齢化社会を迎える中で生じてくるであろう、社会課題に対して、リユースアイテムの情緒性を生かしたソリューションを提供するというのを今年のテーマとしておいています。

・キーワードは、「居場所づくり」、「認知機能低下の予防」、「社会との接点」
「日本一遅いEC」など。

・カフェを借りてのイベント開催、高齢者施設での認知機能の回復実験などを計画中です。

h. ネクシア合同会社 （代表：武藤淳子氏）

（報告：ネクシア合同会社 代表：武藤淳子氏 ビデオ録画にて）

テーマは；自然治癒力を引き出す運動を通して健康な体を創造する未来社会の実現

・ネクシア合同会社の企業理念・ミッション

ネクシア合同会社は「自然治癒力を引き出す運動を通して健康的なカラダを創造する」ことで社会に貢献します。

・ネクシア合同会社のビジョン

自分のカラダを最優先に大切にする行動として健康にとって必要な運動の価値を普及します。

活動目標：

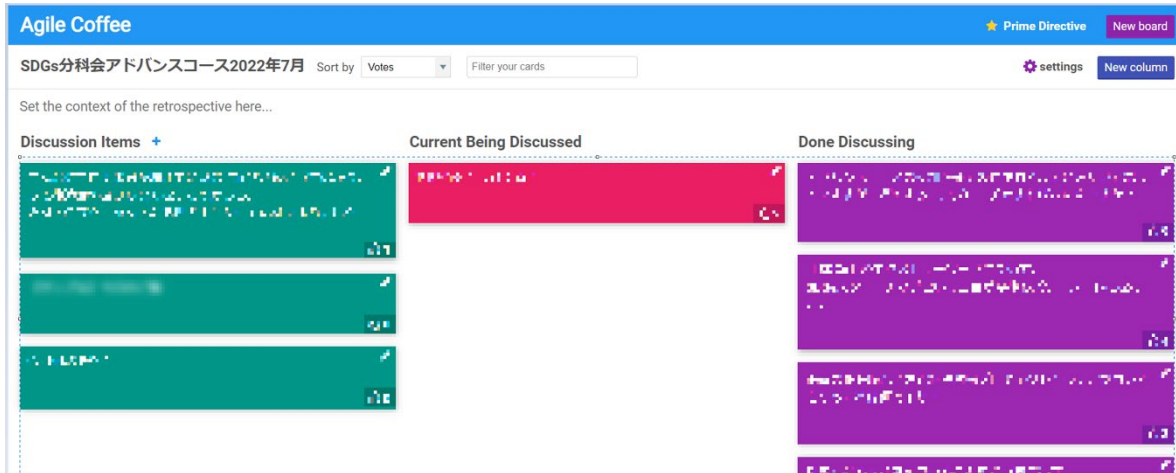
・がんサバイバーが治療の選択肢として運動療法に取り組むことで、がんやがん治療による体力低下や不調を改善する。

治療終了後、がんと共存しながら自分らしく生きるために社会復帰、職場復帰を応援する

・がんの予防・改善としての運動効果を認知する活動とがん専門運動指導士としてビジネス導線を作り収益化したい。

4. フリーディスカッション

アジャイルコーヒーでその場の参加者でアジェンダを決めるリーンコーヒー形式のフリーディスカッションを行い、参加団体からのテーマを基に示唆に富んだディスカッションをおこないました。 いろいろな話題や意見が出て有益な時間でした。



本件についてご関心、ご要望がありましたら下記にお問合せください。
PMI 日本支部 SDGs 担当(sdgs@pmi-japan.net)